

「柔道整復師」の資格を活かし  
アスリートを支えるトレーナーとして  
スポーツに関わり活躍する人たちがいます。  
第3回は大府市にある『ほまれ接骨院』の院長でありながら  
アルティメットチームのメディカルトレーナーとしても活動する  
中本陽介さんにお話を伺いました。

### スポーツを支える 柔道整復師

私の働く『ほまれ接骨院』は、怪我をしたアスリートの復帰に力を入れる接骨院です。怪我に対する適切な処置・施術に加え、運動療法を実施することで早期復帰をサポートしています。

私は高校生のときに、接骨院の存在を知りました。野球で肩を痛め、腕が上がらなくなつて訪れた接骨院で、整形外科でも治らなかった痛みを治してもらったのです。そのとき、こんな風にスポーツに関わる職業があるのだと知りました。大学時代は野球を続けながら、接骨院でアルバイトをしており、そこで出会った柔道整復師に憧れ、その方の母校だった米田柔整専門学校に進学。熱心な先生方のもとで基礎を徹底的に学んだ結果、今でも臨床で一番活かされているのは基礎の部分で、固定法の知識と技術は私の強みになっています。

### 「アルティメット」という 未知のスポーツ

卒業後『ほまれ接骨院』に就職し、現在は院長として患者さんを診るかわら、アル



『ほまれ接骨院』では、運動療法による筋力やバランス向上のサポートも実施している。



## 中本 陽介

中京大学を卒業後、2009年に米田柔整専門学校に入学。柔道整復師の資格を取得した後、スポーツ復帰に力を入れる『ほまれ接骨院』に就職。現在は院長を務めながら社会人アルティメットチームのメディカルトレーナーとして活動している。

## 目指すは世界一。 確かな技術と迅速な対応で アスリートを支える。

のかもわかりません。初めは観察をしながら「こういう動きがあるなら、こういう怪我があるだろう」と予想をするのですが、予想外の怪我也たくさんありました。アルティメットはフライングディスクを使った躍動感のあるスポーツです。バスケットボールとアメリカンフットボールが混ざったような競技なので、怪我也これらの競技と似たものが多くなります。想像以上にハードで、

膝の前十字靭帯の損傷、肉離れ、足首の捻挫のほか、ディスクそのもので指をついたり、キヤッチするときに地面で指を骨折したりすることもあるのです。

### 世界を目指すチームの トレーナーとして

柔道整復師の資格を持つメディカルトレーナーとしての主な仕事は、怪我をしたときに身体の状態を診て、テーピングを巻くなどの適切な処置をすることです。その場で何をすべきかを常に判断し、アスリートをいち早く復帰に導かなくてはなりません。柔道整復師は外傷を得意分野としていますが、なんでもかんでも自分がやれば良いというものではありません。その怪我が



ティメットチームのメディカルトレーナーとしてアスリートを支えています。

以前からトレーナーという職業に興味はあったのですが、できれば野球以外のスポーツのトレーナーになりたいと思っていました。なぜなら、自分の先入観に左右されることなく、純粹に身体を診てアスリートをサポートしたかったからです。

大学の知人の紹介でアルティメットチームのトレーナーをやらせてもらうことになった当初は、アルティメットについての知識はほとんどありませんでした。メジャーなスポーツではありませんし、ルールがわからないのでという怪我が起こる

自分の対処できる範囲なのか、それとも医科に紹介すべきなのかをしっかりと判断することが大切です。また、膝の前十字靭帯を損傷した場合、手術後は大変なりハビリに耐えながら復帰を目指します。復帰後も常に不安を抱えている選手が多いため、膝の様子を確認しながら再発予防のトレーニングメニューを考えたりもしています。

選手の身体は日々変化していくため、練習中の走ったり投げたりしている姿を見ながら、些細な違和感にも気付けるよう、心掛けていますよ。

一昨年のクラブ選手権では、チームが世界6位になりました。世界一を目指すチームなので、結果が出せるように全力でサポートしていきたいです。大会で優勝したときの「ありがとう」の言葉が、やっぱり一番のやりがいですね。



■ スポーツ専科 ほまれ接骨院  
〒474-0025 愛知県大府市中央町6丁目74-1 TEL 0562-85-2782